



講座紹介 Vol.4



福島県立医科大学
神経精神医学講座

H19 年度 後期研修委員会

目次

最近の丹羽先生	．．． 1
1 年目研修医より（吉田衣美 先生）	．．． 4
先輩ドクターより（大友好司 先生）	．．． 5
専門医の立場から（松本清治 先生）	．．． 7
渓流釣りをする精神科医（田子久夫 先生）	．．． 9
編集後記	．．． 11

☆最近の丹羽先生☆



私たち、神経精神医学講座および心身医療科では、毎年 2 月初めに**スキー旅行**を行っています。今年も 2 月 2—3 日にかけて行ってまいりました。宮城蔵王の一部になりますが、**白石スキー場**、**烏帽子スキー場**です。温泉堪能組もおられました。遠刈田温泉です。今回の「最近の丹羽先生」は、2008 年 2 月の講座・診療科合同スキー旅行の話です。

2 月 2 日(土曜) この日は**福島医大・医学部の推薦入試**の日です。ご承知のように、深刻な医師不足対策として、医学部の定員増が一時的に認められ、福島医大も従来は 80 名の定員であったのが 15 名増が認められ、平成 20 年度からは 95 名定員となりました。福島医大・医学部では 95 名の定員の中の 25 名を**推薦枠**としました。福島県内から 20 名程度、県外から 5 名程度を推薦枠で募集しました。合格したら、**県外の方は月額 20 万円の福島県からの奨学金**を受給すること、卒業後は 9 年間福島県内の公的病院に勤務することが義務付けられます。県内の方は月額 10 万円の県からの奨学金を受給できます。受給した場合は卒業後 6 年間は県内の公的病院に勤務することが義務付けられます。推薦入試には学科試験と集団面接試験(ディベート)があります。私は面接者として、面接試験に参加した後に講座・診療科合同スキー旅行に出かけました。

夕方 5 時頃に大学を自分の車で出発し、東北自動車道を仙台方面へ走り、白石蔵王で一般道へ降りて、国道 457 号を遠刈田温泉方面へと向かいました。国道 457 号線は狭くクネクネと曲がることの多い道路でスピードダウンしましたが、それでも目的のペンションへ 6 時半頃には到着できました。このペンションは知人が経営しておられるもので、50 代のご夫婦とご主人のお姉さんの 3 人で宿泊者の面倒を見



ておられます。ペンションは畑と林の中にあります。周囲には 60 戸ほどの民家があり、農業や観光業(ペンションなど)、観光客相手のレストランなどを営んでおられます。着くなり、久しぶりに会いする奥様の盛大な hug に迎えられ感激。しばし、食堂兼居間でストーブに当たりながら夕食の支度が整うのを待ちました。私以外の方々は午前中から到着しておられ、午前・午後とスキーを楽しんだ後に仕事に戻った方も居られましたので、夕食に集ったのは 12 名。



夕食はご主人の心づくしの中華料理が何皿も出され、舌鼓を打ち、持参のお酒も回って心地良い気分となり大満足。夕食を終えると広い食堂兼居間の中をストーブと囲炉裏のある区域へと移動。囲炉裏を囲んで続きのお酒を飲みながら談笑。と、ここでサプライズ。実は私の誕生日は2月3日なのですが、参加者の皆さんがケーキなどを用意して下さい、談笑の座はお誕生会へと早変わり。昭和22年生まれですので、61本に相当するローソクに点けられた炎を、やおら取り上げた50cm程の長さの囲炉裏用火吹き竹を通じて一気に吹き消し、無事セレモニーは終了。美味しいお酒を飲むうちに、畳にごろりと横になり、寝入ってしまいました。

2月3日(日曜) 朝は6時頃に起床しました。起床時、室内はそれほど寒くはありませんでしたので、寒く早くさめたわけではありません。アルコールを摂取すると、睡眠時間は短縮するのです。居間兼食堂の大きな部屋へ行くと、ストーブがつけられ暖かくなっており、囲炉裏のあたりで経営者ご夫婦が新聞など読んでおられました。ご挨拶して、雑談をしていましたが、ご主人は新しい経営の企画について語ってくれました。蔵王の当たりもご多聞に漏れず、観光客は減少していて、経営は容易でないということです。このご主人は、多目的に使用できるホールをペンション隣の土地に自分で建設して、音楽の練習に使用できるようにしておられ、集客能力向上を図ったりしておられます。それでも苦しい状況は克服できないようです。幸い、ペンションの近くは蔵王の火山灰地のせいだろうと思われそうですが、いろいろと美味しい野菜育つのだそうです。有機農法で育てた蔵王の美味しい野菜を使って、主に中高年層を対象とする農家レストランをオープンして、現在の苦しい経営状況を改善したいということでした。いざなぎ景気を上回る長期好景気と喧伝されていますが、これだけ時間が経過しても下流まで景気向上の影響が及んでこないことを考えると、好景気と言われる現象の中味が吟味されなければならないと思います。

クラシックな日本式朝食をとった後、ペンションを後にして白いしスキー場へ向かうグループと、温泉めぐりグループとに分かれて出発しました。7名がスキーグループに参加。ペンションを出てから約30分後に白石スキー場に到着。11時



頃から 4 時間券で楽しむことになりました。天候は小雪混じりの薄曇りながら風は強くはなく、まずまずの日和でした。白石スキー場は初めてでしたが、初級コースが 3 コース、中級・上級コースが 5 コースの距離は長くはないスキー場です。午前中に最強の上級コースを除いて一通り経験しました。お昼を取り、1 時半頃から午後の部を再開しましたが、午後は脚力が急速に衰え、何回もこけることとなりました。午後の一番に最強の上級コースへ怖いもの見たさで行ってみました。整地されたコースというよりは熊笹の残る自然のままのコースでした。「熊落とし」というあだ名がつけられたこのコースは、降り始めて直に段差をつけた崖のようなところがあり、その中央部分だけいくらかゆるい坂にしてあるので、あたかも魚を捕る築場のような作りになっています。コース説明書には最大斜度部分的に 35 度となっていました。これがそうかと思いながらも、横向きにずり落ちる形で、やっと降りてきましたが、ここでかなり体力を消耗したのだと思います。午後はコケ通しでした。

午後 3 時に終了して帰ることとしました。無事に帰宅して何よりのスキー旅行でした。参加された皆さん、ご苦労様でした。また、ありがとうございました。



1 年目研修医よりのメッセージ

吉田衣美（よしだえみ） 先生（医師 3 年目）



■ 経歴

千葉県立東葛飾高校 → 福島県立医科大学 → 福島労災病院
で初期研修 → 福島県立医科大学神経精神医学講座に入局

■ 趣味 読書、映画鑑賞

■ 精神科を選んだ理由と、他に迷った診療科

高校生の頃から精神科医には興味があったので
内分泌内科と迷いましたが、最終的には医学部入学のきっ
かけになった精神科を選びました。

■ なぜ福島医大を選んだか

同級生と丹羽先生(?)がいたから

■ 興味のある分野

今のところ、広く勉強できればと思っています。

■ 日々の生活

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟	予診	病棟	病棟	会津高田	脳波ゼミ	フリー
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	会津高田	フリー	フリー
夜	医局会	フリー	フリー	フリー	フリー	フリー	フリー

■ パート先での様子

会津は暖かい人柄の方が多く、昼食の時間になると看護師さんから詰め所で作った鍋が振舞われる
などアットホームな雰囲気です。入院されているのは慢性期の方が多く、一年パートにいくとすっ
かり顔なじみとなり、患者さんからも声をかけられます。昨年からはデイケアも始まり、会津の精神
科治療も変わってきています。

冬は雪が心配でしたが、幸い私の行く日にはふぶきになることも少なく、
スタッドレスタイヤで乗り切れました。

パートが終ってもぜひ遊びにいきたいところです。

■ 精神科・福島医大を選んでよかったと思う点

他科にも同級生が多く、何かあったときはすぐに相談できます。精神科は
まだ入局して一年なので、まだまだ分からない状況ですが、自分が興味を
持って一生続けていけるものが見つかれば良いと考えています。



先輩ドクターよりメッセージ

大友好司（おおともこうじ）先生



■ 経歴：

宮城県立石巻高校→福島医大
→宮城厚生協会坂総合病院
（臨床研修3年）
→福島医大精神科研修（2年）
→昨雲会飯塚病院（2年）
→星ヶ丘病院（1年）
→福島医大精神科（1年）
→平成18年より、
昨雲会飯塚病院

■ 趣味

当直明けの昼ご飯に蕎麦を食

べること。真夜中にランニングすること。

息子とプラレールで遊ぶこと。家族に内緒で銭湯に行くこと。

■ 精神科を選んだ理由・迷った診療科

気分障害に興味があり精神科に入局しました。精神科の研修に入る前にスーパーローテートでの研修ができる病院を探し、3年ほど研修をしました。呼吸器科研修では指導医に熱心に指導いただき、COPDの治療にやりがいを感じ進路を悩みました。また精神科患者では代謝系の問題を抱える患者が多いとのことで糖尿病科の指導医に誘われ、3年目の総合研修では生活習慣病チームで研修しました。現在でもこの時の研修が精神科での仕事に大きく役に立っています。

■ 福島医大を選んだ理由

大学祭では精神医学チームで丹羽先生に御指導賜り、以前から興味があったうつ病と自殺についての関係をみんなと勉強し発表しました。当時より丹羽先生は指導熱心でユーモアがあり多くの学生に尊敬されていましたが、私もこの勉強会で丹羽先生の人柄にふれ、福島医大で精神医学を勉強したいと決意しました。私は神経精神科入局前にスーパーローテート研修を希望し準備していましたが、卒業した平成9年頃はまだ大学以外での研修を考えることは一般的ではなくいろいろなトラブルも経験しました。そんななか丹羽先生には親身にアドバイスをいただいたり、研修後も定期的に御連絡をいただき身体を気づかっていただいたりと安心して研修をすることができました。今の初期研修の先生達の研修システムを見ていると隔絶の感があります。

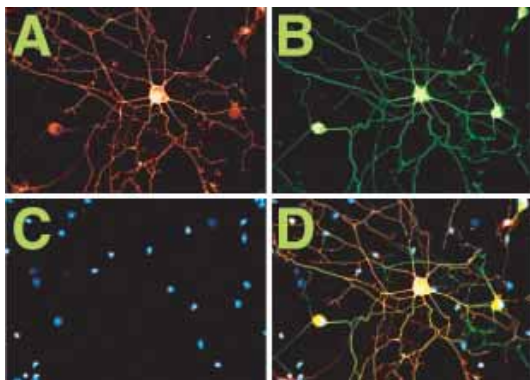
■ 日々の生活

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟	外来	病棟	研究日	病棟	研究日	休日
午後	外来	病棟	病棟回診 15時より NST	研究日	外来	研究日	
夜							

(説明)

現在学位論文申請のため、週に2日の研究日をもらっています。当直は月に4回程度、ひと月に残り番が2~3回、会津地区の輪番待機が2回程度です。

■ 取り組んでいる研究：



・メンバー：丹羽真一先生、増子博文先生の御指導のもと、栗田征武先生、西野敏先生と行っています。栗田先生は精神神経薬理学の分野では著明な先生であり、西野敏先生は化学博士号を持ち、全国の研究所を渡り歩いてキャリアアップをしている実力抜群の先生です。チームはだじゃれが飛び交う楽しい雰囲気の中、蛋白の調整などでは新聞屋さんと一緒に朝帰ったりすることもあり、バイタリティあふれる研究を続けています。

- ・ **どのような研究か**：双極性障害では主に炭酸リチウム、バルプロ酸といった気分安定薬が治療に用いられていますが、その作用機序についてはいまだ多くが判明していません。チームではニューロンの神経伝達や環境調整を行うアストロサイトに対し気分安定薬がどのような影響を与えているのか、主に脳由来神経栄養因子やその受容体、さらにその先の伝達系を計測し検討を行っています。
- ・ **活動内容・頻度**：毎週木曜日に研究を行い、土曜日は主に論文作成、文献の検索をしています。
- ・ **おもしろいと感じる点**：非常に基礎的な研究ですが、その結果は臨床に直結しており、すぐに治療に反映させることができるところです。近年はニューロンよりもアストロサイトの疾患への関与が指摘されていますが、ヒトアストロサイトマの培養系で研究を行える大学は世界を探しても少なく、臨床系の大学講座では皆無です。ニューロサイエンスの最先端でかつ **only one の研究**を行っていると思自負しています。
- ・ **この研究が進むと、どうなるのか**：気分障害患者の治療については気分安定薬が第一選択薬として用いられますが、気分安定薬の選択については判断する材料に乏しく、精神科医の経験によることが多いのが現状です。我々の研究では脳由来神経栄養因子とその受容体に対して気分安定薬の作用に差があることを見いだしています。前もって患者の神経栄養因子の状態を計測することでより適した薬剤を当初から投与することが可能となり、また生物学的指標として治療の効果を採血により評価できるようになると考えています。

■ 精神科・福島医大を選んでよかったと思うこと

現在仕事や研究が進んでいるのは丹羽先生や増子先生、また栗田先生や西野先生の御指導（叱咤激励？）のおかげであり、私がここまで成長できたのはその先生方なしでは考えられないことです。自分に適した研修できるシステムが存在することについてはもちろんですが、指導や検討を繰り返し続けていただき、そして人間としても尊敬できる師匠を福島医大神経精神科で見つけることができたことを大変幸せに感じています。

是非興味があればお声がけ下さい。新しい時代の精神科医とお仕事ができる日を心待ちにしています。

専門医の立場より

松本清治（まつもとせいじ）先生



■ 経歴

→ 昭和 63 年福島県立医科大学卒業

→ 昭和 63 年福島医大 神経精神医学講座入局

平成 4 年から

財団法人金森和心会針生ヶ丘病院に勤務

（平成 12 年から同院副院長）

平成 18 年から同法人理事

兼務：郡山市介護認定審査会委員（平成 11 年 10 月介護保険制度開始から平成 20 年 3 月まで継続）

■ 精神科を選んだ理由

脳と心には未解明のことが多く、これからやるべきことがたくさんあると興味を持っていました。

ある先輩精神科医の「精神病の患者さんの病的症状よりも日常生活に注目することが重要だ」という言葉に感銘を受けたことが精神科を選んだ大きな理由の一つです。

■ 福島医大精神科を選んだ理由

地域の精神科医療に貢献したいという希望を持っていました。

福島医大精神科は、大学内での研修体制が整っており、また、地域の精神科病院とのつながりが強く、大学外での研修体制もしっかりしていることが入局を決めた大きな理由です。

■ 専門領域：

研究部門では「フリーラジカルの精神神経疾患への関与について」というテーマで、福島県立医大 RI 講座・山形大学工学部との共同研究を行い、L-バンド ESR 装置を用いた in vivo 計測により、丹羽教授のご指導の下、学位をいただきました。

臨床面では、地域（郡山市）の最前線での精神科医療に関わっております。外来では、かかりつけ医から、メンタルヘルスの相談や初期のうつ病などの紹介を受けることも多くなっています。病棟では、統合失調症や気分障害の急性期から回復期への入院治療、認知症への対応を主に担当しています。心の専門医としていつでも気軽にかけられる精神科外来と入院環境づくりを目指しています。

現在の医療においては、医療の安全に係る知識と実践が必須であり、認定医療安全管理者の資格を得て、精神科特有の事故防止のためのマニュアルを作り、安全な医療の提供と事故防止に力を入れています。たとえば、2 年以上前から深部静脈血栓症予防チャートを作って活用し、肺塞栓の予防対策を行っております。

資格： 精神保健指定医
博士（医学）
日本医師会認定産業医
四病院団体協議会認定医療安全管理者
日本精神神経学会精神科専門医（過渡的措置申請中）

■精神科を選んで良かったと思う点

精神科医には、医療のみならず、保健・福祉・教育・産業活動そして日常生活の向上へとつながる幅広い分野においての活動が期待されており、やりがいがあります。対象となるのは、様々な年代の患者さんです。そして、精神的な病気ではない方のメンタルヘルスの向上にも寄与できます。

精神科では、専門分野のスペシャリストになるとともに、精神科医療全般に対応できるジェネラリストにもなれることが、最大の魅力です。



■研修医のみなさんへのメッセージ

財団法人金森和心会 針生ヶ丘病院は、昭和8年に福島県で初めに創設された精神科病院です（451床）。創立75周年を迎えた平成20年に235床の新病棟が竣工し、精神科急性期治療病棟の運用を開始しました。法人としては、南相馬市に“雲雀ヶ丘病院（254床の精神科病院）”、針生ヶ丘病院の近くに“クローバー子供図書館”を運営しています。

現代社会は、ストレス社会です。国民は精神科での専門的な医療を求めています。我々は、それらの要請に応えるべく個室や広く静かな治療・療養環境を整えて精神科入院医療を実践するとともに、訪問活動の拡大・充実などを通して退院促進に努めています。さらに、認知症に伴う行動異常への対応や治療にも精神科医の専門的な診療が必要です。一方で、発達障害児への対応が注目されています。当院では、25年前から発達障害児・者への療育（旧称 治療教室）を行っており、これらは日本随一の内容であると自負しております。今後はこれをさらに拡大し、機能の充実を図っていきます。

精神科への受診は、患者さんやご家族にとって未知の世界への訪問であり、他科の先生方にとっても未経験の分野であった時代が長く続きました。現在の初期臨床研修制度になってから、すべての研修医が精神科医療の現場で研修され、精神科医療の正しい知識を持って診療にあたられることをうれしく・頼もしく思っています。それとともに、多くの医師が精神科専門医への道を選ぶことを期待しています。

後期研修においては福島医大神経精神医学講座では、大学内での研修のみならず、関連病院において日本最先端の精神科診療の研修をすることができます。研修医の皆さんが、我々とともに学び・働き、よりよき精神科医となることを目指してゆくことを期待します。

溪流釣りをする精神科医 (その4): あんこう鍋編

磐城済世会舞子浜病院名誉院長 田子久夫

これまでは溪流での釣りの話をしてきましたが、不肖私は昨年12月にめでたく(?) 医大を退職し水平線の見える病院に赴任したものですから、しばらく川から離れることになりました。その病院はいわき市平の東端で海のそばにあり、歩いて5分で広大な砂浜となります。その名も舞子浜といい、釣りバカの口ケ地にもなったことがある由緒ある場所です。病院はその名を冠しているわけです。当地では海釣りができますが寒いのは苦手なので、当分もっぱら食に専念することとしました。とにかく、いわきの取り柄は魚が新鮮なこと(ぐらい?)で、農産物の食べ過ぎがいまの自分の体型に結びついたと思いこんで



いたので、ダイエットにもいいと勝手に決め込み、魚をおかずにいろいろ食べあさっているところでもあります。その結果体重は、残念ながらまた増えたような気がします。

いわきの冬といえば、そうですアンコウなのです。とにかく新鮮で安いのです。高価なアンコウが福島とは比較にならないような安さなので、平の「やっちゃば」と

いう市場から大きな肉とアンキモを買ってきて福島に戻り、早速鍋にして食べることにしました。溪流釣り師の息子の誕生日前夜(12月28日)

でもあり、魚のことならおれに任せると、アンコウのうんちくもたれつつ調理したわけです。事件はそのときに起こりました。きれいに捌かれている肉のかたまりをみて『これを刺身にしたらもっとうまいだろう』と怪しい考えにと



りつかれたのです。早速、手際よく薄造りにし皿にならべ、巻くためのネギも用意しました。いざ食べようと醤油につけたところ、「お父さんその白いひもみたいのはなに?」と息子に言われたのです。「ん?」と、件の白いものをみるとやおら動き始め、やがて醤油の中を泳ぎ始めたではありませんか。黒い液体の中を白い生き物が8の字を描いて泳ぐ様は一瞬美しいと感じたのですが、直後にからだから血の気が引いていくのを感じました。その結果、薄造りの刺身はすべて鍋の中に入れられ残りの生き物は釜ゆで(鍋ゆで?)となったのです。

おいしいはずのアンコウ鍋は、結局複雑な気分でたべる羽目になってしまいました。ネットで調べてみたら載っていました。その名を『シュードテラノーバ』というのだそうです。アニサキスに負けないほどの威力があるそうです。アンコウを刺身で食べるときは超低温で24時間以上保管してからにしましょうとも書いてありました。父親の威厳は地に落ち、翌日の息子の誕生日はその話で持ちきりでした。この日は会津の温泉に行き、おい

しい郷土料理を食べることになっていたのですが、複雑な気分はまだ尾を引いていたのです。

結局何事も起こらず、その事件は終了となりました。そしていわきに戻り、すべてを忘れ、希望あふれる新年を舞子浜で迎えることができたのです（写真）。



写真：舞子浜からみた今年の初日の出

< 編集後記 >

心身医療科講座紹介 vol.4(春号)はいかがだったでしょうか？

今年は花粉が多いという予報が出ていますが、
対策を講じなければと思いつつつもゴテゴテに回って泣きを見るという
例年のパターンに陥りそうです。

心身医療科には、4月から新人後期研修医が4名入局予定となっています。
追って、ご紹介させていただきますので楽しみに ♥

今後も皆さまの進路決定などの際にお役に立てるような情報をご提供できるよう努力して
いきたいと思えます。ご意見、ご感想、“こんなことがもっと知りたい、”というご要望
などありましたら下記アドレスまで、ぜひお寄せ下さい。

✉ ⇒ namahagenator@gmail.com

脳波ゼミ見学也大歓迎

3・4月は、異動や歓送迎会ラッシュで続き落ち着かないシーズンでもありますが、
フレッシュな気分でお互い頑張りましょう！

Staff

【編集長】笠原 諭

【写真】志賀哲也、藤井英介

【編集】沓沢有希子、吉田衣美